

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
堀籠義裕		horigome@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	IWKa-170901-0	22人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

テーマ設定から調査の実施・分析、報告書の作成までを全学生が行った。本実習で調査を企画し、調査票を作成し、データを集め、その結果を報告書にまとめることを通じて、社会の状況をより深く知ることの意義について理解が深まったものと思われる。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

地域博物館の運営に関する意識調査

2. 調査の内容／概要：

市町村立の博物館や郷土資料館の運営の現状や課題などについて、施設の運営担当者を対象に郵送調査を行った。履修者22人を3グループに分け、各グループで調査項目や仮説の検討及び調査票の原案作成を行い、その結果をもとに実習クラス全体としての調査票を作成した。先行研究の調査票内容や分析手法についての批判的検討も行うことで、単なる調査過程の経験だけではなく、意義のある社会調査のあり方を考えさせることを意識した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

東北および北海道の各地域に設置されている歴史関連の博物館285施設

4. 主な調査項目：

最近3年間の来館者数、最近3年間の予算額、職員の人数（学芸員、事務）、館内での自主企画の取組、館外での自主企画の取組、運営上の課題（施設、予算、マンパワー、外国語対応など）

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

郵送調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査の実施時期：2017年6月16日～6月30日・調査地：北海道及び東北地方・調査員の数：22人

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

有効回収票は153票、回収率53.7%であった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

学生の統計学の理解の状況を踏まえ、本学部においてD科目認定を受けている「統計学II」までの範囲で分析を行った。分析作業においては、調査票作成段階と同じグループ構成で、主要設問を従属変数とする分析を各グループで分担しながら行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

来館者や予算の規模が大きい施設では、PRや館内外での様々な活動を行っている一方、規模の大きさ故に職員不足やインバウンド対策の不足という問題に直面している。また、近年の予算増加率が低い施設ほど学芸員不足やインバウンド対策の不足に直面しており、予算面の制約が、館の専門性を高めたり、来館者のすそ野を広げる取り組みをを難しくしていることがうかがえる。

10. 報告書刊行の予定と概要：

なし。ただし2017年8月に分析結果の概要をまとめ、調査対象に郵送している。